

ホームページへの掲載	
2月28日	掲載予定

## 岐阜県立恵那高等学校

学校長 額額 康雄  
学校住所 岐阜県恵那市大井町1023番地1 電話 0573-26-1311

- 1 会議の名称 恵那高等学校評議員会 (第2回)
- 2 会議の構成
- |    |       |                |      |
|----|-------|----------------|------|
| 委員 | 鈴木 素子 | 鈴木素子司法書士事務所    |      |
|    | 高木 應浩 | 東栄製紙工業株式会社 社長  | …ご欠席 |
|    | 長嶋 俊之 | 地域住民、元県立高等学校校長 |      |
|    | 西山 隆志 | 恵那高等学校PTA会長    | …ご欠席 |
|    | 蜂谷 明子 | 蜂谷医院 小児科医師     |      |
- (委員名は五十音順)
- |     |       |         |  |
|-----|-------|---------|--|
| 学校側 | 額額 康雄 | 校長      |  |
|     | 高橋 俊和 | 教頭      |  |
|     | 渡辺 昭夫 | 事務部長    |  |
|     | 足立 幸司 | 教務主任    |  |
|     | 磯部 徹  | 生徒指導部長  |  |
|     | 高橋 清仁 | 進路指導部長  |  |
|     | 佐々木俊哉 | 探究理数科部長 |  |
- 3 会議の目的 学校運営について、地域住民や関係諸機関の代表者から幅広く意見を聞き学校改善を図り、地域全体からの支援・協力を得て、愛され信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和2年 1月28日(火) 13:30~15:40 恵那高等学校会議室  
委員3人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要 学校長より挨拶、出席者紹介の後、スーパーサイエンスハイスクールの取組として、1年生理数科SSL「ディベート決勝戦」の授業の参観を行った。その後、令和元年度学校経営計画(マニフェスト)、教務部、生徒指導部、進路指導部、探究理数科部より令和元年度の教育活動について、学校評価アンケートの結果を中心に説明し、各委員の方々からの意見聴取及び意見交換を行った。

### (1) テーマ 学校概要説明

- 学 校 長 本校の教育方針の究極の柱は、幸せな人生を歩んでほしいということに尽きる。10年後20年後の自分の未来を見据え、先が見えない現代社会であるがゆえに、広い視野をもち、社会に貢献できる人を育てたいと考え学校運営を行っている。そのための方策として、次に挙げる取組を柱としている。
- (1) 「地域を考える」
- 総合的な探究の時間でのふるさと教育  
キャリア教育の観点から、世界や日本という大きな枠組みで活躍する人も輩出したいが、一方地元で活躍する人の育成にも力を入れている。今年度は地元恵那市の職員より田舎と都会の暮らしについて、具体的なデータをもとに講話をいただいたり、地元の中小企業で働いている管理職や係長クラスの方から、働きがいや生きがい、地元で働く・暮らすことについての講話もいただいた。
  - 「恵那田舎塾」  
深刻化する少子化の時代の中で、ふるさとの良さを発見し、地域を元気にする活

動をしている方々の生き方、魅力を学ぶ「恵那田舎塾」も今年は12回開催した。  
・地元で活躍できる人の育成

本校では地元で活躍する具体的な人物像として「教員・地方公務員・会社役員」を柱として、ミニ教育実習であったりインターンシップなどの活動を積極的に取り入れ、生徒の意識・意欲の向上を図っている

(2) SSH・探究活動の充実

平成16年度から、通算4期16年間SSH事業を実施してきた。16年間で本校が培ってきた取組・成果を、発信・普及を目指した活動も求められている。理数科での探究的な授業展開は深まってきており評価も得ている。今後はその取組を普通科に浸透させるかが課題だと考えて、具体的な取組が始まっている。

(3) グローバルな視点をもった生徒の育成

いよいよ本年度から「恵那地球塾」が本格的にスタートした。海外に目を向け、グローバルな視点をもった生徒の育成は、どこで働こうが、現代の世界では必須である。3つのプログラムでの成果を広め、社会で自身をもって貢献できる人を育成していきたい。

(4) 以上の取組から、本校の特徴である探究型の学習では、課題発見能力、解決能力の育成に成果が表れている。例を挙げれば、国公立大学の推薦入試での合格者数は、毎年岐阜県の1位2位のレベルを保っている。今後も新しい学力観、社会のニーズに合致した教育を提供、推進していく。

### 教育目標・学校評価

(1) 7月に実施した生徒及び保護者を対象とするアンケートの分析を報告。ほとんどの項目で向上した結果となった。特に「家庭との連携」「教職員」「学校行事」の分野では、前年度より評価が向上した。また、地域との関わりに関する評価については、10%以上向上した。逆に「授業を通して一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」の項目については大幅に後退した。来年度単位制の導入を機に、改善に取り組みたい。まだ改善の余地があるので、本日頂戴する意見等を参考にして、更なる改善を行いたい。

(2) 教職員のストレスチェックの結果、「職場環境によるストレス」「働きがい」「上司からの支援」については、全国平均を上回り好結果を得た。全国平均を下回る項目はなく、それぞれの教職員が生き生きと仕事に向き合う環境である。

### 教務部

(1) 学習指導について、年に2回の授業研究週間を設け、学習内容の定着を目標に授業を振り返り改善に活かしている。「わかる」授業を展開することにより、自己肯定感の向上を目指している。来年度からの単位制導入により、よりきめ細かい授業を実施できる教育課程を編成している。

(2) 総合的な探究の時間の充実、SSHを含めた探究型学習について、アンテナを高く張り、深化させていきたい。現状、本校の探究活動の成果として、推薦入試で多くの合格者を出している。この力は今後社会が求める力と一致しており、また学校評価アンケートにおいても、高い評価を得ている。

### 生徒指導部

(1) 生徒指導は全ての教職員で全ての生徒に対して行うものであるというスタンスで、組織的に指導に当たっている。現状たいへん落ち着いた学校生活を送っている生徒がほとんどであるが、悩みを抱えた生徒、多様なニーズのある生徒の増加により外部との連携を含めた教育相談的な機能をより一層充実させていくことが重要である。それに伴い、個別の教育支援計画を作成して対応する事例が増加する傾向である。年3回のいじめ迷惑調査と年2回の担任との個別の教育相談が実施されているが、今年度は「いじめ」を疑われる事例が昨年度より若干増加している。一昨年度より「いじめ」の定義が広がったこともあり、今後も事例があがることが予想される。今年度は素早い対応により解決に向かった事案ばかりだった。今後も情報収集、保護者との連携を強めていくことが重要と考えている。

(2) 学校評価アンケートでは「成長の糧となるような学校行事を行っている」や「生徒が主体的かつ自覚をもって物事に取り組む校風がある」など、高い評価を得ている。生徒が企画運営するLHRや、生徒会が運営する学校祭等の諸活動・諸行事を積極的にサポートしていきたいと考えている。

(3) 制服等を含めた校則を見直すことで、LGBTへの配慮もおこなっている。

### 進路指導部

(1) 新大学入試制度の導入対象は現高校2年生からであるが、すでに入試問題の出題

傾向に変化が見られている。そうした観点から、生徒への説明は当然ながら、保護者向けに「保護者進路研修会」を5回開催し、情報提供に努めた。その結果、学校評価アンケート「学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」の項目に対して、98.1%の保護者がほぼあてはまると回答している。社会が求める人物像の変化をはじめ、キャリア教育的な視点と同時に今後も情報提供を行っていききたい。

- (2) 種々の講演会はもとより、ミニ教育実習や高大連携事業（岐阜大学、名古屋大学、岐阜女子大学、中部学院大学等）により、進路選択を考える様々な機会を提供し、進路意識、学習意欲の向上を図っている。そうした成果が「学校は外部講師の講演や様々な体験を積むなど、授業以外の学習の機会を多く設けている」という質問項目に対し、生徒（85.4%）、保護者（90.3%）共に高評価を得ている。
- (3) A0・推薦入試の枠の増加に伴い、受験方法の見極めが重要になってきていると考えている。そのため、進路検討会議の回数を増やし、早めの指導を行っている。

- 探究理数科部 (1) SSH事業は、科学技術系人材の育成を目標に実施されており、本校でも、課題研究、論理的思考力の育成、社会との共創を3本柱に取り組み、4期16年目を迎えている。文理を問わず、身近なことへの疑問を持ち、考える力と解決する方法を探究することにより、情報化社会を生き抜く力、社会に貢献する人を育てたいと考え、様々な取組を行っている。
- (2) 課題研究では、突き詰めて研究することにより、多くの成果を出している。大学入試においても、その研究により多くの合格者を出している。
- (3) 今年度は、他校との交流も図った。本校に県内理数科設置校や研究に力を入れている高校4校を招き、ポスターセッションやプレゼンテーションを通じた交流会を初めて開催した。また、中学生にも研究発表の場を設けたが、お互いよい刺激を受け、大きな成果を得ることができた。こうした交流を通して、世界の広がり、科学のおもしろさの発信も続けていきたい。
- こうした教育活動を通して、見通しの立たない社会で最適解を見出す力を持ち、地域、日本、世界で必要とされる資質・能力を備えた人を育成したいと考えている。

## (2) テーマ 意見交換

- 意見 1 教職員の働き方改革について、今後の対策を明確にする必要があるのではないか。ストレスチェックの結果は、平均とはいえ、一般的に考えれば、抑うつ感や身体愁訴などが高いと思われる。教職員の日頃からのケアが必要だと思う。
- 意見 2 今日理数科ではディベートの授業を拝見した。昔はよくディベートに取り組んでいたが今はあまり聞かなくなっていた。そうした中、恵那高校がこうして取り組まれていることはたいへん有効で、生徒は様々な思考経験ができる。このような経験をしてきたSSH初期の卒業生に効果を検証する調査をしてみる価値があるのではないか。  
→現在調査を行っているが、まだ回答数が17%と多くはない。継続して調査していきたい。
- 意見 3 小中学校の学校評議員もしていたが、小中高の連携が必要だと感じている。小中学校は高校に対して遠慮していると感じるので、もっと積極的に連携すべきではないか。
- 意見 4 中学校に対する広報、保護者・生徒に対する広報がしっかりされている。学校の様子がよくわかり楽しい。明るくよい学校という印象が強く、広がっている。
- 意見 5 先週行われた理数科の課題研究中間発表会を拝見した。目標や何のために研究しているのか、学習の意義をよく理解した発表だった。先生が何を学ばせたいのかが重要で教科間の連携が重要だと感じた。
- 意見 6 探究活動をはじめ、校内の取組、様子から、SDGsに対して、生徒の意識の高さを感じる。
- 意見 7 生徒の体力・身体能力に不安を感じる。文武両道の学校であってほしい。

意見 8 人口減少、教員不足など、地方の問題は深刻化するばかりである。これからは地域を支える人材の育成が、普通科高校の使命ではないか。特にこの地域の学力の低下は著しく、教員養成は急務である。

## 6 会議のまとめ

率直で貴重なご意見を多数頂戴し、たいへん有意義な学校評議員会となった。概ね現在恵那高校が取り組んでいる教育活動に対し好意的で期待が込められたご意見が多かった。更によくするためのご意見が多く、一つ一つが具体的な指針となるもので、このご意見を活かす方策を考え実行に移していきたいと考える。

現在本校が取り組んでいるキーワード「探究」「地域」「国際」に対し、共感をいただき、さらに深く取り組んでいく勇気と自信をいただけた会であった。

様々な課題もある中、教職員の働き方改革という新たな課題にも直面している。会の中でも指摘があった教員養成のためにも、また時間外勤務時間を顧みず、生徒のため、学校のために尽力している教員自身のためにも、現状を改革する勇気が必要であると考えさせられた。

今後は、変化が激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができるような資質や能力を育み、国や地域社会のリーダーを育成するよう、評議員の皆様をはじめ、多くの方々の意見を取り入れながら、全職員で協力し尽力していきたい。